

HU-plus

広島大学の知に触れる情報誌
Hiroshima University Magazine Vol.29

January 01
2026



theme

学ぶ

特集

広島大学が描く、未来のカたち
#3「学ぶ」

知の交差点

首尾一貫した姿勢。

本質を見極める通説に惑わされない現場主義。

藻谷 浩介氏

株式会社日本総合研究所
調査部 主席研究員



越智 光夫
広島大学 学長

挑戦の丙午年 過去を礎に光り輝く大学へ

2026年の新春を迎え、広島大学を代表して謹んでご挨拶申し上げます。本年は干支で「丙午（ひのえうま）」に当たり、60年を一巡とする古代中国の観智を想起させます。干支は、自然の理と人の営みが重なり合う長い時間の流れを示し、還暦の祝いに象徴されるように、新たな旅立ちを告げる節目として日本社会に深く息づいてまいりました。

60歳は健康寿命の転換点ともいわれます。2024年に国際研究チームが示したとおり、60歳付近では免疫や代謝に急激な変化が生じることが科学的に明らかとなっています。人の生にも、組織の歩みにも、大きな転換点があるという事実を改めて思い起こさせる研究成果です。

経済学には、景気が約50～60年の周期で波動を描くとされる「コンドラチェフの波」理論があります。自然、社会、組織、それぞれのリズムが交錯しながら歴史を紡いでいくという視座は、大学の歩みにおいても示唆するところが大きいと感じています。

前回の丙午である1966年、日本は高度経済成長のただ中にあり、広島大学も食品工業化学科の増設など学術基盤の拡充を進め、未来への地盤を固めました。まさに飛躍の胎動が始まっていた時期であります。

一方、現在の日本は人口減少と少子高齢化という大きな潮流に直面しています。しかし、私はこれを悲観すべき局面とは捉えていません。「危機は機会なり」という教えのとおり、時代の曲がり角こそ新たな創造の契機であり、大学が果たすべき役割はむしろ一層高まっています。本学では、半導体・超物質研究の国際的拠点となる産学官連携の新研究棟が今春、東広島キャンパスに完成いたします。夏には、理工系で初の外国大学日本校となる米国アイダホ大学広島キャンパスが開校し、9月には霞キャンパスにおいて国内大学で唯一のワクチン・医薬品製造拠点が竣工します。これらはいずれも広島大学が総合研究大学として未来の社会を切り拓く責務と可能性を、さらに力強く体现するものです。

『戦国策』にある「前事を忘れずんば、後事の師と為る」という劉向の言葉は、現代にも普遍の教えを示します。創立75+75周年事業、被爆80周年記念事業をはじめ、私たちが積み重ねてきた歴史の成果と課題を正面から受け止め、その経験を未来へと昇華させることが求められています。加えて、孔子の「温故知新」の精神を胸に、これまで培った学問的蓄積を新たな革新へとつなげてまいります。

60年後、100年後においても、広島大学が世界に輝く学術拠点であり続けるために、私たちは既に新たな一歩を踏み出しています。「学生や若い研究者のために何ができるか」という基本理念を揺るぎない軸に据え、教育・研究、国際化、地域連携など、全方位的な改革と挑戦を進めてまいります。

越智光夫

広島大学の知に触れる情報誌
Hiroshima University Magazine

HU-plus
2026.01 January vol.29

【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに“プラス(+)”、【HU】とあなたが“つながる(+)”という願いを込めて。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 学長対談 知の交差点
株式会社日本総合研究所
調査部 主席研究員 広島大学 学長
藻谷 浩介氏 × 越智 光夫
- 06 旬なトピックを世界に届ける HU TIME
- 07 特集 | 広島大学が描く、未来のカタチ
#3 学ぶ

- 13 研究者人生を導く 私の座右の銘
- 15 HU PRISM
- 19 卒業生インタビュー 私も広大です
- 21 Focus on! 人から深掘るHU
- 23 HU-Style
- 25 HU TOPICS
- 27 広大生のアクティブライフ!
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

学ぶとき、私たちの脳は歯車のように精密に動いています。そこに広島大学の研究が生み出す「知」が噛み合うことで、未来に向かって社会が力強く駆動していきます。



広島大学SNS



Instagramでキャンパスの日常を配信中



The Year of the Fire Horse: Building a Radiant Future on the Foundations of Our Past

As we welcome the New Year of 2026, I would like to extend my sincere greetings on behalf of Hiroshima University. This year corresponds to Hinoe-uma—the “Fire Horse”—in the traditional zodiac, recalling the ancient wisdom of China’s sixty-year cycle. For centuries, the zodiac has symbolized the long flow of time in which natural principles and human endeavors intersect. In Japan, it has become deeply rooted as a marker of renewal—most notably in the celebration of one’s sixtieth birthday, a moment signifying a new beginning.

Sixty is also said to mark a turning point in healthy life expectancy. As an international research team reported in 2024, rapid changes in immunity and metabolism occur around this age—a scientific finding that reminds us that both individuals and institutions experience pivotal moments of transition.

In economics, the Kondratiev wave theory posits that economic cycles unfold in waves of roughly fifty to sixty years. Nature, society, and institutions each possess their own rhythms, and their intersection is woven into the fabric of history. I feel that this perspective carries significant implications for how a university develops over time.

In the previous Fire Horse year of 1966, Japan was in the midst of rapid economic growth, when Hiroshima University was also expanding its academic foundations—such as by establishing the Department of Food Chemistry and Technology—laying the groundwork for future advancement. It was a period when the stirrings of a major leap forward had already begun.

Today, by contrast, Japan faces major demographic challenges, including population decline and an aging society. Yet I do not regard this as a moment for pessimism. True to the saying that “every crisis brings opportunity,” turning points in history have often coincided with the birth of new creativity—and the role of universities becomes all the more indispensable. This spring, a new industry-academia-government collaborative research building will be completed on the Higashi-Hiroshima Campus, serving as an international hub for semiconductor and meta matter research. In the summer, the University of Idaho Hiroshima Campus—the first Japan campus of a foreign university in the Science, Technology, Engineering, and Mathematics (STEM) fields—will be launched. Furthermore, in September 2026 the Kasumi Campus will see the completion of Japan’s only vaccine and pharmaceutical manufacturing center—the first of its kind operated by a university in Japan. Each of these developments clearly demonstrates Hiroshima University’s mission and potential as a comprehensive research university committed to shaping society of the future.

In the words of Liu Xiang in the “Strategies of the Warring States,” “Past experience, if not forgotten, is a guide for the future,” offering a timeless lesson. Building on the achievements and challenges we have faced throughout our history—including the 75+75th Anniversary Projects and the events marking the 80th anniversary of the atomic bombing of Hiroshima—we must confront our past squarely and translate these experiences into future progress. In the spirit of Confucius’s teaching, “Onko chishin”—to learn from the past and acquire new wisdom—we will continue to build on our accumulated academic knowledge and connect it to new innovations.

To ensure that Hiroshima University remains a world-class academic center sixty—and even one hundred years—from now, we have already embarked on new steps forward. Anchored firmly in our fundamental philosophy—“What can we do for our students and junior researchers?”—we will pursue comprehensive reform and bold challenges across education, research, the internationalization process, regional collaboration, and all other domains of our mission.

Shi Mitano

首尾一貫した姿勢。

本質を見極める 通説に惑わされない現場主義。

物事を判断する時は
先入観ではなく経験を信じる

越智 今回は、日本総合研究所調査部の主席研究員、藻谷浩介さんにお越しいただきました。早速ですが、幼少期はどのようなお子さんでしたか。

藻谷 私は3兄弟の真ん中っ子です。兄弟と母の4人で父の常識めいた理屈に対抗していたので、幼いころから論理立てて話す力が鍛えられていました。学校に通い始めると、父の理屈が実は世間の常識とずれていることに気がきました。そこで、根拠不明の一般論を語るような物言いは信用できないと学びました。

越智 物事の本質を見極めることに関心があり、東京大学法学部に進学されたのでしょうか。

藻谷 その通りです。誰が社会を動かしているのか、あるいは誰も動かしていないのか。そうした世の中の仕組みに興味がありました。

越智 入学して何か発見はありましたか。

藻谷 東京大学の法学部生は官僚になるのが当然という通説がありましたが、実際に官僚になるのは一学年で数人程度。世の中には実態を確認せず、先入観にとらわれて物事を見る人が多いと気がきました。

越智 藻谷さんは中立的な立場から物事を見て、ご自身の経験に基づいた発言をされるのですね。

藻谷 ええ。先入観にとらわれずに実体験に裏打ちされた発言を心掛けています。外科医出身の越智先生な

広島大学 学長

越智 光夫

Ochi Mitsuo



株式会社日本総合研究所
調査部 主席研究員

藻谷 浩介氏

Motani Kousuke



らよくご存じの通り、医師が思い込みに左右されて診断したら誤診してしまいますよね。それと同じです。

社会全体を人体の構造に見立てて
日本経済を見直す

越智 大学ご卒業後は日本開発銀行（現日本政策投資銀行）に入行されたそうですね。

藻谷 子どものころから海外に行きたいという思いがあったので、留学しやすい勤務先を選びました。それに加えて、日本地理の知識も生かれます。

越智 日本地理にお詳しいのですか。

藻谷 はい。平成の大合併前に私費で3,200市町村全てを訪問し、歴史を紐解いたことがあります。それを楽しんでいるうちに詳しくなりました。また、英会話も独学で学び、自在に話せます。大学入学試験に関係なく勉強した日本地理と英会話が、今では最も役に立っていますね。このようなケースもあるため、大学入学試験で偏差値だけを合否基準にするのは合理性に欠けています。さらに、こういった偏差値主義は地方大学を危機に導いている可能性も大いにあるでしょう。

越智 もう少し詳しく述べていただけますか。

藻谷 偏差値を偏重する傾向によって、日本の国家公務員の幹部候補には東京出身者が増加しています。もちろん全員とは言いませんが、そういった官僚の中には地方や海外の実情をよく知らない人も多いです。彼らが国の運営を担うと、地方を軽視して切り捨てるよ

株式会社日本総合研究所
調査部 主席研究員

藻谷 浩介 もたにこうすけ

山口県周南市出身。東京大学法学部卒業後、日本開発銀行に入行。1992年に渡米し、コロンビア大学経営大学院で経営学修士(MBA)課程を修了。2012年より現職。地域経済や人口動態を中心に分析を続ける。

広島大学 学長

越智 光夫 おちみつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。



うな判断をする傾向にあります。

越智 そうなると地方大学は大打撃を受けてしまいますね。現在、国立大学の運営費交付金は法人化された2004年度以降、減少したままです。この点についてどのようにお考えですか。

藻谷 国の税収は過去最高なのに国立大学に予算が回らないのは、公費運営の戦略的ななさが原因でしょう。少子社会だからこそ、教育を公費で支援すべきです。社会を人体に見立てるなら、お金は栄養。どうすればそれが全身に回るのか、システム全体を見直さなければなりません。

平和への希望を追究し 知好楽に生きる

越智 藻谷さんはお仕事柄多くの大学に足を運ばれていますが、大学には何が重要だとお考えですか。

藻谷 学内の強固な組織体制です。トップが入れ替わると、大学の方向性が一变してしまうこともあります。広島大学の場合はトップが正当な権限を握って大学の方針を先導されているため、健全な組織体制が敷かれていると確認しました。

越智 ありがとうございます。

藻谷 また、広島大学は世界の平和を牽引する大学でもありますよね。

越智 近年は世界中から大学のトップを招いて、大学の平和貢献について議論する平和学長会議の開催に注力しています。大学間の学生交流を活性化させ、ぜひ多くの学生に平和記念公園や広島平和記念資料館にお越しいただきたいです。

藻谷 G7広島サミット時のように、他国のリーダーにも足を運んでほしいですね。原爆の惨禍を知ってから平和や政治について発言していただきたいです。

越智 では、広島大学は平和を牽引する大学として具体的に何をするべきだとお考えですか。

藻谷 2つ提案します。1つ目は、平和の実現を願う運動を立体的に広げ、世界的規模へ発展させる起点が何かを議論することです。100年もたてば被爆経験が風化し、「広島や長崎の原爆は全部CGだった」と言い出す人がいてもおかしくありま

人間の普遍的な楽しみの中で、自分が特に好きで楽しいことを見つけたい。

藻谷



せん。そういったことを防ぐために、私たちは何をするべきかを考えるのです。2つ目は、原爆の被害を受けた広島が、なぜ復讐ではなく「同じ惨禍を繰り返させない」という訴えに世論を統一できたのかを研究することです。世界各地で紛争が起きている今、このような行動は最大の希望ですね。

越智 小倉桂子さんのような語り部が戦後に英語を学び、自らの言葉でメッセージを届けた功績も大きいでしょう。最後に、こうした歴史を背景に持つ広島で学ぶ学生へメッセージをいただけますか。

藻谷 目先の損得にとらわれず、本当の自分を見つけてほしいです。他者に対して「自分の方が偉い」などと上下関係を作るのは無意味な行為です。他者と比べて優位に立とうとするのではなく、昨日の自分を超えられるように努力することに意味があります。そして、どうか人生そのものを楽しんでください。

越智 「楽しむ」とは、具体的にどういったことですか。

藻谷 例えば、夕暮れを見ながらお酒を飲んだり、大切な人と一緒に過ごしたりして楽しいと思えることです。このような人間にとっての普遍的な楽しみや喜びの中から、自分自身がより好きで楽しめるものを早く見つけてほしいです。

越智 つまり、何事も心から楽しんで取り組める人こそが人として優れているということですね。孔子『論語』の一説にある「知・好・楽」の教えを想起させます。

藻谷 孔子の時代からの真理なのですね。人に迷惑をかけない楽しみを見つけられれば良いですし、人のためになる楽しみであればなお良いでしょう。私の場合は自ら何かを企画するのではなく、誰かに依頼されて働くのが楽しいです。人に頼られるのは本当に幸せなことですよ。

越智 大きな意味で社会貢献ですね。

藻谷 社会貢献の形はさまざまですが、学生にも生きる上で知好楽を大切にいただければ。

越智 そうですね。本日はありがとうございました。

H U TIME

旬なトピックを世界に届ける



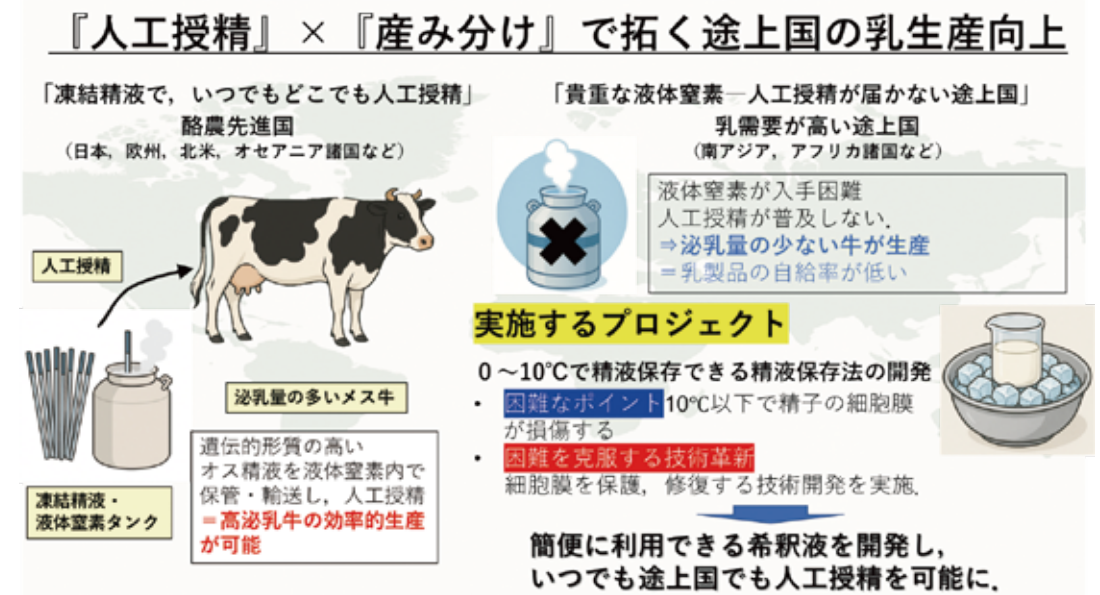
～途上国の酪農を救う～ 広島大学の「乳牛の新たな生産方法」技術に 世界最大の民間慈善団体から2.6億円の助成を獲得

島田昌之教授が進める「牛の人工授精に使う精液の保存技術の開発」に対し、世界的な慈善団体であるGates Foundation（ゲイツ財団）から約180万ドル（約2億6千万円／令和7年10月時点）の研究助成が決定しました。これは、島田教授の研究グループが財団から受領した二度目の助成金です。

今回の助成プロジェクトでは、島田教授らが明らかにしてきた精子の運動の仕組み、エネルギー代謝の仕組み、低温で起こるダメージの原因といった研究成果を基盤に、液体窒素を使わず、5℃前後で精子を保存できる新技術の開発に取り組みます。冷蔵庫程度の温度で保存・輸送できるようにすれば、世界中の途上国で人工授精技術が一気に使いやすくなります。

広島大学の技術が世界へ
新たな資金調達でより多くの
農家への普及を目指す

人工授精技術で変わる未来
ーインド・アフリカの食と暮らしを支えるために



※本記事はゲイツ財団の資金提供を受けたプロジェクトに基づいています。
記載されている知見及び結論は筆者自身のものであり、必ずしもゲイツ財団の立場や方針を反映するものではありません。

HU MIRAI DESIGN

広島大学が描く、未来のカタチ

#3「学ぶ」

問いから、 未来がはじまる

「なぜ?」「どうして?」

人類の歴史を動かしてきた

最も根源的な衝動は、問うことです。

私たちは問いを発することで思考を動かし、

新しい発見や変化を生み出してきました。

素朴な疑問が学びの扉を開く鍵となり、

まだ見ぬ未来へとつながっていきます。

学びとは、問題の答えを暗記し、

正解を覚えることではありません。

知的好奇心を満たし、

個人を成長させ、

社会を動かす原動力——それが学びの力です。

今回は、生物学・教育学・社会学・心理学など

多様な「問い」から

学びの可能性に深く迫ります。



特集

広島大学が描く、未来のカタチ

知を拓く 学びの本質 その核心に迫る

学びとは与えられるものではなく、
私たちの中にある
小さな疑問から始まります。
脳の働きや教育現場での実践を通して
学びの本質を紐解きます。



魚の脳の働きや 学習行動の仕組みを 解明する

吉田 将之 准教授 大学院統合生命科学研究科 専門:生物学的心理学

私は魚を対象に、脳の働きや行動について研究しています。例えば「キンギョは恐怖を学習するのか」という実験を行いました。部屋の明かりがつくと軽い電気刺激が与えられるという条件付けを繰り返すと、キンギョは明かりがついただけで恐怖の身体反応を示すようになりました。つまり、魚も学習するのです。生きるためには学習が不可欠であり、学習しない生き物は

存在しないと考えられるでしょう。

では、魚の脳ではどのようなメカニズムが働いているのでしょうか。脳に電極を挿してニューロンの反応を観察したところ、キンギョの恐怖学習には小脳が深く関与していることが分かりました。また別の学習様式では異なる脳の領域が関与しており、学習は脳全体で成立していると言えます。

魚と人の「学び」には、本質的な違

いはありません。ニューロンなどの構成要素は同一であり、異なるのは脳の規模にすぎません。私たちはつい、魚より人の方が優れていると考えがちですが、魚の脳にはまだ私たちが想像もしていないような知の様式が潜んでいるかもしれません。脳や情動の仕組みを紐解くことで、人間、ひいては生き物への理解を深めていきたいと思っています。



キャリアに関するワークショップの様子



医学生の学びを助け 学習効果を高める 教材を開発

連沼 直子 教授 大学院医系科学研究科 専門:医学教育学

本学をはじめとする医学生向けの教材開発に携わっています。コロナ禍で大学病院での実習が中断された際には、問診や診察の自習が可能なVR教材や、オンラインで学生同士が医療面接(問診)のロールプレイングを行う教育プログラムを開発しました。その結果学生たちは実技試験で好成績を収め、教材の工夫によって学びの質を向上させることができました。

講義では学生が主体的に学ぶ工

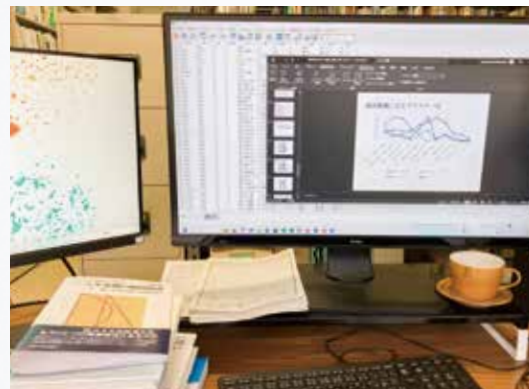
夫をしています。「ラーニングピラミッド」によると、学習の定着率は受け身の講義よりも、五感を使う視聴覚教材やグループディスカッション、実習のようなアクティブラーニングになるほど高くなるとわれています。主体的に学びアウトプットすることで学習効果が高まるのです。

また、キャリア教育にも長年取り組んでいます。ライフイベントに影響を受け、働き方を模索する医師は依然として多く、若手医師が柔軟に主体的にキャリアデザインできるような力を身に付けることが重要です。キャリア教育は地図を渡すだけではなく、旅の仕方、サバイバル方法を伝える必要があるのです。今後も医学生に限らず多くの方に応用できる、時代に即したプログラム開発を続けていきたいと思っています。



社会のさまざまな要因により生じる 教育格差の実態を探る

出身階層、性別、出身地域など、本人がコントロールできない社会的要因による教育格差について研究しています。例えば、日本では中高生の学力形成が学習塾産業に大きく依存しており、家庭の経済力が教育格差に直結しやすい特徴があります。また、4年制大学への進学率は一貫して女性より男性の方が高く、性別による教育格差も見られます。教育格差は複合的な要因の関連から形成されていますが、



教育に関する調査データをWEBと書籍から収集



研究室の様子。膨大なデータを分析



白川 俊之 准教授

大学院人間社会科学研究科
専門：社会科学、教育学、
教育社会学

現在私が着目しているのは教育の目的であり結果でもある職業選択です。出身階層や性別によって志向する職業がどのように異なり、教育格差に結びついているのかを経験的なデータを通して検証しています。

研究の根底にあるのは、「良い教育」とは、それを望む全ての子どもに学ぶ機会が平等にある教育だという考えです。しかし、教育の専門家が知を集結し「良い教育」を実践しても、その活用が教育を受ける子どもや家族に委ねられる以上、意図しない結果となる可能性もあるでしょう。教育は社会問題を解決する万能ツールではありません。だからこそ、本人が望む教育を受けられるようにすると同時に、受けられなかった人に対してはそれが人生で決定的な不利とならないよう、教育の結果の不平等を補償する仕組みづくりが必要だと強く感じています。

学びのあり方を見つめ直すことは、
人が知と向き合う姿そのものを問うことでもあります。
科学的な視点からその仕組みを解き明かし、
より良い教育の実現に向けて学びのかたちを探ります。

学び方を科学し 知の可能性を広げる

学習カウンセリングで子どもの自立的な学びを支援

学習者が自立して学ぶには、効果的な学び方を理解し活用することが重要です。私は、児童や生徒がその方法を身に付けられるように支援する指導法を研究しています。小学生を対象とした学習カウンセリングでは認知心理学の理論を踏まえ、学習の取り組み方や考え方を探り、改善を促進。例えば、文字の記憶が苦手な児童の漢字学習では漢字を丸暗記するのではなく、間違えやすい箇所を意識しながら覚える「自分テスト&間違い分析法」を指導しました。客観的に理解のプロセスを把握する、認知心理学でいう「メタ認知」を応用した手法です。また、教育学部の学生を児童のカウンセラーとして参加させることで、将来の教員を育成する教育活動としても機能しています。

私が考える「良い教育」とは、子どもたちの「なりたい自己」（自身がどんな生き方をしたいかというイメージ）と、「なれる自己」（今の自分の延長としてなれそうな自己のイメージ）の重なりを豊かに広げ、深めることです。学校教育を受けた結果、そうした自己への想像が狭まってしまうと非常に残念です。微力ながら、子どもたちが

学びを通して自己への想像を広げ、自身の将来を選択・形成できる教育となるよう、効果的な学習法を解明し浸透させることが私のミッションです。



効果的な学習法を伝授し子どもの勉強をサポートする様子



学習カウンセリングのスキルを磨く、小学校教員志望の学生たち

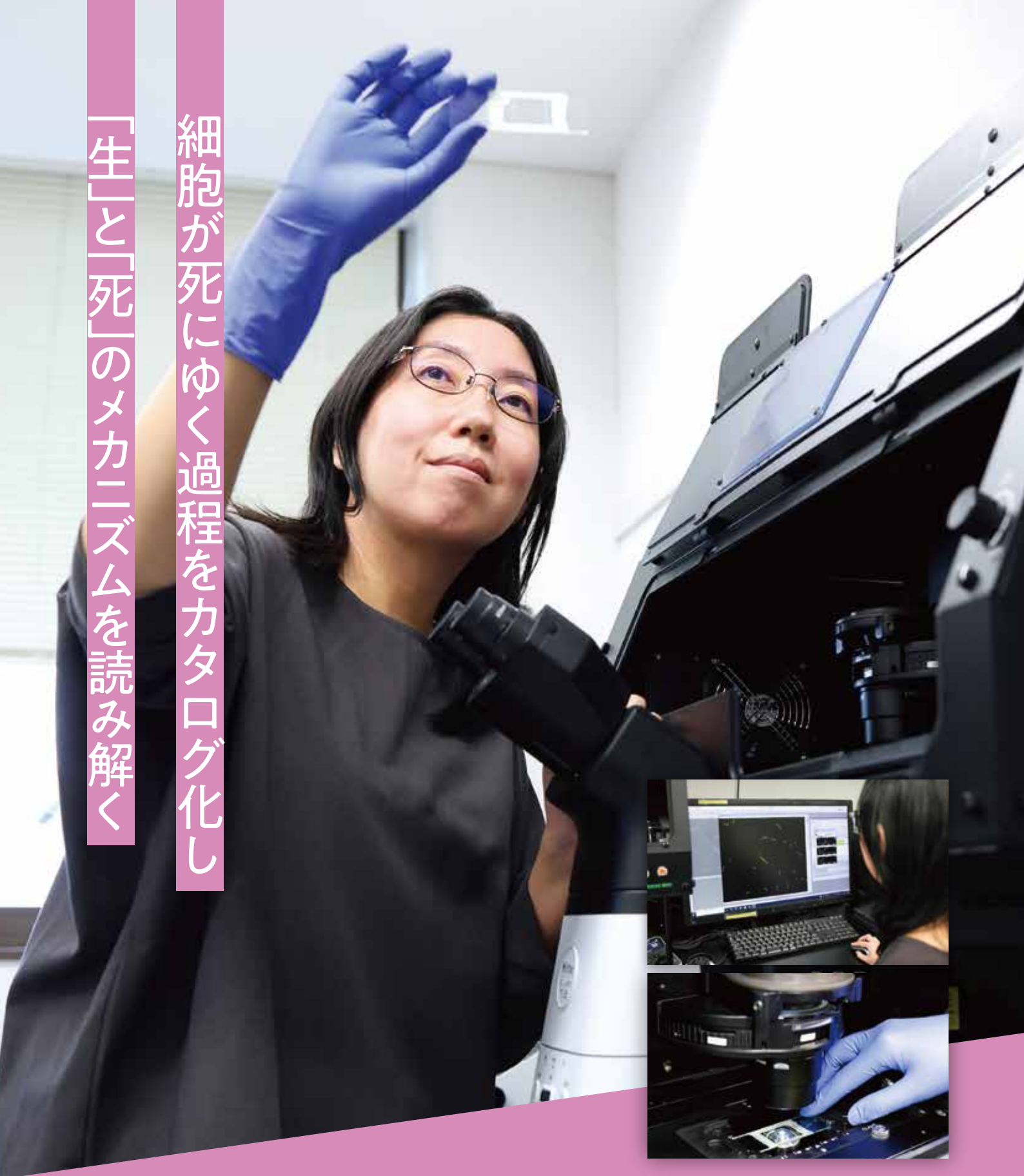


深谷 達史 准教授

大学院人間社会科学研究科
専門：社会科学、心理学、
教育心理学

「生」と「死」のメカニズムを読み解く

細胞が死にゆく過程をカタログ化し



わたし ざゆう めい

研究者人生を導く 私の座右の銘

最先端の研究に挑み続ける研究者たち。困難に直面した時や決断を迫られた時、そして成功の瞬間に彼らを導いてきた言葉とは何か。日本科学技術ジャーナリスト会議に所属するライターが、「座右の銘」から研究者の人となりを読み解きます。

座右の銘

迷ったらやってみる

細胞死はどう定義できるか 多様な角度から導き出す

教科書に記されている、全ての生物に共通する特徴に照らして考えると、細胞が活着しているとみなされるためには「細胞膜があること」「代謝を行うこと」「自己複製をすること」の3つが必要であると考えられます。統合生命科学研究科の加藤節准教授のグループは、この3つの条件が必ずしも同時に失われないことを発見しました。それでは、どのような状態になったら細胞は死んでいると言えるのでしょうか。細胞が活着している状態については共通認識がある一方で、死んでいる状態には共通認識が存在しません。そこで「細胞死の状態を、分かりやすい言葉で明確に定義すること」を目標に研究を進めています。

研究対象は大腸菌。生きた細胞の様子を観察するために広く利用されており、顕微鏡画像による解析などさまざまな手法が使用可能です。ハード・ソフト両面の技術向上により、顕微鏡画像の自動判定の精度も高まっています。

研究では「自己複製ができない」ことを細胞死の暫定的な指標としています。なぜなら、3条件のうち最も明瞭に判定で

きるからです。増殖可能な大腸菌をストレス環境下にさらして増殖できない状態にした後、再び増殖可能な環境に戻し、増殖機能が復活した細胞の割合で細胞の状態を判定します。この際、形態だけでなく、細胞内の生理状態も同時に数値化。何を、どのように測定するのが、研究のオリジナリティです。画像解析プログラムは測定項目にあわせて自ら設計し、培養・画像の撮影・データ回収の自動化も試みているといいます。

細胞死の全体像を捉えて定義するために、ストレス下で細胞が死んでいく際のさまざまな表現型を収集。いわば、細胞死の「カタログ化」です。これにより、細胞の状態を制御できる可能性が見えてきました。細胞の状態を見極められるようになれば、弱った細胞を回復させる手段の提案や、細胞の効率的な増殖による生産性向上も可能になります。バイオものづくり分野など、産業界からの期待も高まっているそうです。

時間をかけてデータと向き合い 踏み出す勇気が発見につながる

研究では測定したデータからいくつ

ものグラフをつくり、それらの関係性を一つずつ見いだすことによって、細胞死の全容を紐解きます。「1年前のグラフの意味が、今日つくったグラフを見て、ようやく明らかになることもある」と加藤准教授。一つの結果が出れば、即座に一つの問題が解決する研究スタイルではないため「発見は瞬時に訪れるのではなく、結果が出た後にじわじわとしみ込める」と語りました。

座右の銘は「迷ったらやってみる」。「これまでいろいろな場面で迷ったり、壁にぶつかったりしましたが、その度に自分を信じて挑戦してきました。考え抜いても壁を打ち破れない時は、友人や研究者仲間など周りの人に相談します」。勇気を出して一歩踏み出し、耳を傾けてみれば、ちょっとした言葉が心に響き、新たな発想に結びつきます。学生にも、一歩踏み出して人と話すことを勧めているとのこと。

そして、自分の選択を後悔しないのが加藤准教授のポリシー。「大学院の指導教員の言葉です。自分で考えて選択した結果が、今の姿。現状を肯定して、ポジティブに考えなさい、と言うことかな」。細胞死のカタログ化を目指し、これからも研究に邁進します。

加藤先生の息抜きは？

ほっと一息 Break time

家族と過ごすことで頭の中のスイッチが切り替わり、リフレッシュタイムとなっています。平日は18時には仕事を切り上げて、研究者である夫と家事を分担。週末は、娘と過ごす時間を大事にしています。習い事の水泳教室に付き添って一緒に水中ウォーキングをしたり、サイクリングに連れ立ったりするのが日々の楽しみです。



大学院統合生命科学研究科 准教授

加藤 節

かとう・せつ／2005年東京大学農学部卒業。同大学院で修士課程、博士課程を経て、2010年博士（農学）を取得。同年イェール大学博士研究員、2016年に同大Associate Research Scientist。2017年広島大学大学院先端物質科学研究科助教、同大学院統合生命科学研究科助教を経て、2022年より准教授。

HU PRISM

広島大学は、さまざまな形で社会とつながっています。
プリズムが光を分散させるように、
多角的な視点からその取り組みを映し出します。

EVENT

学内外で行われたイベントを
ご紹介します。



越智学長(左) エマニュエル・トッド氏(右)

フランスの歴史人口学者エマニュエル・トッド氏 西洋の価値観の変化と日本の平和について語る

2025年10月18日、広島大学霞キャンパス凌雲棟で第99回広島大学講演会が開催されました。講師として、フランスの歴史人口学者・家族人類学者のエマニュエル・トッド氏が登壇。約240人の学生や教職員の前で「西洋の道徳的危機に直面する今日の日本」と題した講演と、越智光夫学長との対談を繰り広げました。トッド氏は家族形態や人口変化から社会や政治の動きを分析する学者です。1976年に出版した著書『最後の転落』の中ではソ連の崩壊、2002年出版の著書『帝国以後』ではアメリカの一極支配の衰退と終焉について論じるなど、世界的な事象を次々と予言したことで知られています。

今回の講演会でトッド氏は、平和記念資料館や宮島から受けた強い印象と核兵器の脅威や世界の価値観の変化について言及しました。また、西洋では宗教の消失によって道徳の崩壊が起き、個人の孤立や社会の分断につながっていると指摘。そういった面で、宗教の多様性や美への感性を保つ日本に対し、ニヒリズムに陥りにくい点を高く評価しました。越智学長との対談では日本の核武装について意見を交わし、トッド氏は「日本がアメリカの核の傘に守られているというのは幻想であり、核兵器による恐怖の均衡が平和につながる」と述べました。他方で、越智学長は核兵器の保持に反対の立場を表明。2人の異なる視点から議論が展開されました。参加者にとっても、多角的に平和の本質やその実現に向けた思索を深める貴重な機会となりました。

エマニュエル・トッド (Emmanuel Todd)

歴史人口学者・家族人類学者。1951年フランス生まれ。家族制度や識字率、出生率に基づき現代政治や社会を分析し、ソ連崩壊、米国の金融危機、アラブの春、英国EU離脱などを予言。主な著書に『グローバリズム以後』『我々はどこから来て、今どこにいるのか?』『第三次世界大戦はもう始まっている』など。

PROJECT

AMEDの医学系研究支援プログラム
に採択されました。



中四国で唯一の代表機関として 13.8億円の支援で最先端医療研究と研究環境を強化

2025年8月21日、広島大学(代表)・神戸大学・熊本大学が共同で推進する研究プロジェクト「広島・神戸・熊本医療革新・研究共同推進イニシアティブ(HK²-MIRAI)」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の医学系研究支援プログラム(特色型)に採択されました。AMEDが進める本事業は、大学病院や医学部の研究環境を強化し、文部科学省が主導する「国家戦略上重要な研究課題」への取り組みを加速させることが目的です。採択により、研究費の支援に加え、研究基盤や人材育成、教育DXなどの環境整備に対しても幅広い支援が行われます。

HK²-MIRAIは3大学が連携し、日本の医療の未来を担う研究を推進するプロジェクトです。3大学の強みである「がん・感染症」「神経・免疫・運動器」「代謝・循環」の分野を重点研究分野として選定し最先端研究を推進していきます。これら重点研究分野における研究を創薬、AI・医工学、再生・細胞医療、バイオ先端技術などの最新技術を駆使することで、革新的な医療研究を支援していきます。中でも本学の強みとなる、国内大学初のワクチン・治験薬の製造・製剤施設を整備する「PSI GMP教育研究センター」や最先端ゲノム編集技術に関する研究や人材育成を行う「ゲノム編集イノベーションセンター」により、3大学

においてより高度な医学研究の展開を図ります。研究環境の整備においては、研究者が自分の研究内容や状況に応じて、必要な支援を選べるオーダーメイド型の支援を導入。さらに、3大学共通のプラットフォームを活用して研究データを収集・統合することで、研究成果を迅速に医療現場などに還元することを目指します。

今回の医学系研究支援プログラムには全国から17件の応募があり、複数機関が連携して実施する「特色型」として選ばれたのはわずか6件。そのうちの1つがHK²-MIRAIです。本採択により、3年間で合計13.8億円の支援を受けられます。事業への採択にあたっては、HK²-MIRAIの疾患メカニズム解明と革新的治療法の開発を目指す研究構想の妥当性や基礎・臨床・データ科学を融合した多職種連携の推進力が期待されていると考えています。さらに研究環境整備については、「柔軟な勤務体制」、「研究支援人材の配置」、「若手・次世代研究者の育成と参画促進」、「教育のDX化」といった3大学共通の課題に対する具体的な対策などが評価されました。この支援を最大限に活用し、研究環境や人材育成、教育のデジタル化を一層推し進め、世界レベルの研究成果を生み出すことで人々の健康や医療の発展に貢献していきます。



8.5億円の支援に、
※
地域を巻き込み、
未来の半導体技術者を育成
中四国で唯一の採択



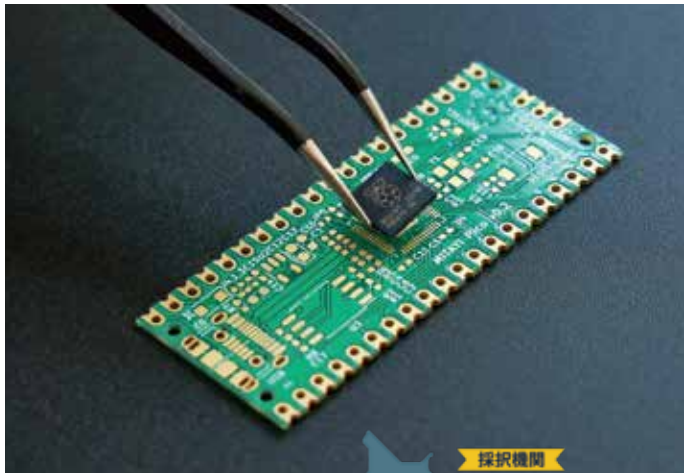
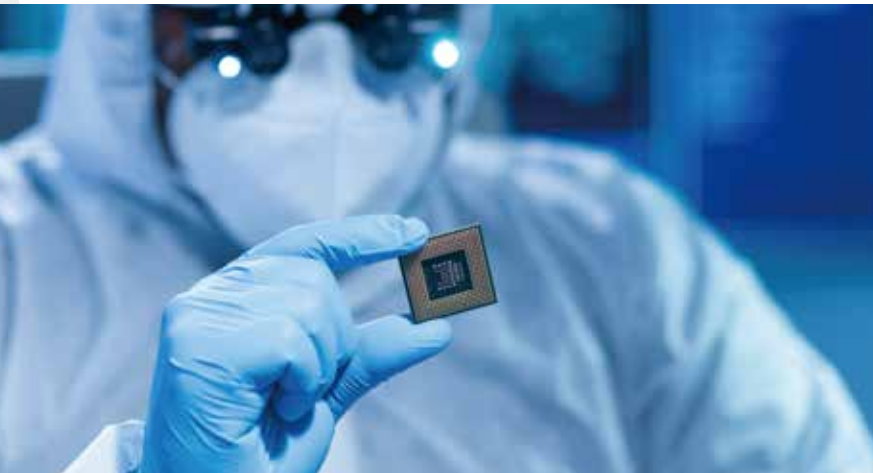
文部科学省の半導体人材育成拠点形成事業
に採択されました。

スマートフォンやパソコン、自動車、AIなど、私たちの身近なツールに欠かせない半導体。この半導体産業の高度人材の育成を目的として実施された「令和7年度大学教育再生戦略推進費半導体人材育成拠点形成事業(enSET)」および「令和6年度補正大学教育再生戦略推進費半導体人材育成拠点形成事業(半導体人材育成拠点形成のための設備整備事業)」の公募において、広島大学が岡山大学、山口大学、愛媛大学と連携して提案した「中四国半導体人材育成加速プログラム-中四国VISTA(Value-Integrated Semiconductor Talent Acceleration)-」が採択されました。

本プログラムは、大学院修士レベルを主対象として、半導体産業における喫緊の人材不足に応えることを目指しています。半導体の設計や製造といった専門分野にとどまらず幅広い知識とスキルを身に付け、産業全体を俯瞰できる「総合知」を備えた人材を育成します。具体的には、多様な専門分野(工学、理学、情報、材料、化学など)を背景とし、固体物理・電子物性・プロセス・デバイス・

回路設計を段階的に学習するカリキュラムを構築。スーパークリーンルームでの実習、VR教材を活用したバーチャル演習、産学協働型PBL、実践的な「現場参画型トレーニング(on-site training)」などを組み合わせ、基礎から応用・社会実装に至る一貫教育を提供します。

中核を担う本学では、材料・プロセス・設計・応用を体系的に学べる一貫教育体制に加え、スーパークリーンルーム等を活用した実践的教育体制を整備しています。さらに、岡山大学・山口大学・愛媛大学をはじめとする中四国地域の大学・高専と連携し、地域全体で人材育成を推進します。また、産業界とも幅広く協働。マイクロンメモリジャパン株式会社やせとうち半導体コンソーシアム参画企業、中国地域半導体関連産業振興協議会などから実際の現場課題を教材として提供していただき、学生がリアルなニーズに触れながら学べる環境を整えます。来年度からの学生受け入れに向け、事業の本格始動に向けた準備を着実に進めていきます。



※最終支援年度の前年から予算減額措置あり



文部科学省の
未来を先導する世界トップレベル
大学院教育拠点創出事業
に採択されました。



西日本で唯一! 年間3.65億円×7年の支援※を通じて
世界的大学院拠点を目指す



広島大学は、地球規模課題の複雑化と技術革新を創出する人材育成が不可欠であるという現実に直面し、次代を切り拓く総合知の創出を使命としています。建学の精神である「自由で平和な一つの大学」と、理念として掲げる「持続可能な発展を導く科学」を基盤に、本学の強みである学際的研究力、国際連携、産学協働の実績を生かし、世界的大学院教育拠点を形成し、未来を担う博士人材の育成に挑みます。

そこで、広島大学は『「持続可能な発展を導く科学」を实践する世界的大学院教育拠点形成』(参画大学: 島根大学、岡山大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学)を、令和7年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業(FLAGs)」に提案しました。本学は、産業界や国内外の教育研究機関と連携を強化することで世界トップレベルの大学院教育を実施する拠点形成を目指しています。今回、大学全体で変革

を進めようとする総合大学を対象とする「総合型」に申請し、西日本で唯一採択されました。

本事業は今後、日本の未来発展を支えるイノベーションを推し進める博士人材の輩出拡大を目指していきます。まず、FLAGsに基づく取り組みとして、世界をつなぐ国際拠点となる国際ハブ大学の形成を進めます。さらに、海外大学や産業界、地方自治体などのステークホルダーで構成する「Industry Advisory Board」と共創することで、産学連携教育による博士人材の育成を強化します。そして、大学院教育マネジメント改革と人事制度改革を含む組織マネジメントの改革も実施します。

これらの取り組みを通して、世界が直面するさまざまな課題に立ち向かえる、高い専門性と国際的な視野を持った博士人材を育てていきます。そして、高度なスキルを持った人材が社会で活躍し、日本のイノベーション推進に貢献できるよう、大学として全力で取り組んでいきます。

※最終支援年度の前年から予算減額措置あり

WE ARE FROM HIRODAI

私も広大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。

広大のここがええね！

卒業生同士の強い結びつきが魅力だと感じています。会社役員になってからは、在学中は親交がなかった同級生とも親しく交流をしています。現在の仕事にもつながる貴重な縁です。

大学で得たつながりが、工場勤務から海外駐在まで幅広い挑戦を後押ししてくれました

大学院工学研究科出身
※現 大学院先進理工系科学研究科
西田 祐樹さん
UBE株式会社
代表取締役社長

にしだ・ゆうき／広島県出身。1987年広島大学大学院工学研究科の博士課程前期を修了後、宇部興産株式会社（現UBE株式会社）に入社。ファインケミカル事業に長く携わる中で、製造、研究開発、営業、海外駐在と幅広く経験。専務執行役員を経て、2025年4月より現職。

部活動や研究室での時間を 通して心身ともに成長した

広島で生まれ育った私は、小学生の頃からどこか当たり前のように広島大学に進学すると信じていました。工学部を志したのは、エンジニアという職業に漠然と憧れていたためです。

大学2年までは勉強と部活動を両立。高校から始めた陸上を大学でも続けました。自分の技量だけで勝負し、数字ではっきり結果を出せるのが陸上の面白いところ。高校と比べてハイレベルな大学の陸上に、心身ともに鍛えられました。

3年以降は工学部が東広島キャンパスに移転になったこともあり、学問に集中

しました。応用化学を専攻し、須澤利郎教授の研究室に所属。大学院修了まで毎日実験に明け暮れていました。自分なりの仮説を立て、少しずつ条件を変えてデータを取る、という地道な試行錯誤の繰り返しでしたが、それが実に楽しく、やりがいを感じました。また、須澤教授からは研究のことはもちろん、社会人としてのマナーも教えていただきました。研究室での経験全てが現在に通じています。

広島大学が生む縁を支えに 研究開発や海外駐在を経験

今の会社への就職を視野に入れたのは、同じ研究室の先輩が入社したことがきっかけです。入社後、工場勤務を経て

研究開発部門への異動を希望していた際にも、同じ学部出身の先輩にお世話になりました。その方の勧めで担当することになったC1ケミカル開発には今も携わっており、現在の自分を支えるベースとなっています。また、他にも多くの先輩方に背中を押され海外駐在も経験。言葉の壁を越え、自分の持つ知識や経験で勝負をする貴重な経験ができました。

私が仕事で大切にしているのはスピード感。学生の皆さんも、何かに取り組むときには完璧に成し遂げようと考えすぎず、まずは一歩踏み出して挑戦してみてください。その一歩がより良い結果を生むはず。です。

実験の面白さに虜になり、 遺伝子組み換えに没頭した 大学院時代

出身大学では生化学を専攻していました。卒業研究では乳酸菌を扱うテーマに取り組み、微生物実験の面白さに強く惹かれました。さらに微生物に関する研究をしたいと思い、広島大学大学院工学研究科に進学。永井史郎教授の研究室に所属し生物化学工学の研究に取り組みました。

大学院時代は、人生の中で一番楽しかった期間です。研究室には自由な雰囲気があり、学生たちがそれぞれ自律し互いに教え合いながら研究していました。

博士課程では遺伝子組み換えによる酵母の遺伝育種を研究。自分なりに工夫を凝らして実際に自らの手で仮説を検証する実験の楽しさに夢中になりました。時間も忘れて没頭したのは今でも良い思い出です。

研究者からビジネスの道へ。 LPSの認知度向上を目指す

現在の会社では、LPS原料の製造と販売を行っています。LPSとは、体の細胞の機能を活性化し、免疫を高める物質。起業した頃LPSは炎症誘導物質、体に悪いというイメージを持たれていました。そのため、当初は経口摂取の効果を理解してもらうことに苦労しました。し

かし、最近は私たちの事業の成果もあってかポジティブな話題が見られるように。多くの人にLPSを知ってもらうことが仕事のやりがいです。

会社を始めるまで、日本学術振興会の研究員や大学助手を経験。分岐点では自分がやりたいと思う道を選び、選んだあとは、自分の決断に後悔しないよう目の前のことに一生懸命に取り組んできました。研究者になるか迷っている皆さんには、自分の心の声に耳を傾けて決断してほしいです。私がビジネスの道に入ったのは47歳でした。若い皆さんには時間と可能性が十分あります。研究が好きなら、まずは挑戦してやりきってみてください。

大学院工学研究科出身
※現 大学院先進理工系科学研究科
河内 千恵さん
自然免疫応用技研株式会社
代表取締役社長

こうち・ちえ／広島県出身。広島大学大学院工学研究科博士課程を修了後、日本学術振興会がん特別研究員、帝京大学助手、広島大学アイソトープ総合センター助手などを経て、2006年7月に自然免疫応用技研株式会社を設立。以来、現在に至るまで代表取締役社長を務める。

研究に熱中した日々を原動力に 健康を保つLPSを世界に広めます

大学院修了後何度か職場を変えましたが、どのステージにおいても広島大学の先生方に支えられました。特に、恩師である永井史郎教授は起業の際にもお力添えいただきました。広大で得た人とのつながりが、現在の私を支える礎となっています。

広大のここがええね！

学生起業家に聞きました! Focus on!



人から深掘るHU

勉強や課外活動などに励む広島大学の学生たち。
今回は学生起業家である2人のキャンパスライフを深掘りします。

パシャっと!
Campus snap



仕事の合間にはスペイン広場で、頭の中を整理します。



作業にぴったりなミライクリエ。開放感ある空間がお気に入りです。

とらでいっしゅ株式会社
代表取締役

かた ぎり も え

片桐 萌絵 さん

総合科学部総合科学科3年

民俗芸能を未来へつなぐ!



“共感”から始まる地元企業と学生の橋渡し

パシャっと!
Campus snap



温かくておいしいご飯が食べられる学食。
おすすめは「鶏ボン唐揚げ」です。



図書館で勉強することが多いです。本の
香りに囲まれてリラックスできます。

キャンパスベンチャー グランプリ大賞受賞! 伝統を次世代へつなぐ

神楽や獅子舞といった民俗芸能は、少子高齢化や地方の過疎化の影響を受け消滅の危機にさらされています。民俗芸能を継承するためには、ビジネスの観点から捉え直すことがヒントになると考え、学生起業家の登竜門「キャンパスベンチャーグランプリ」に挑戦。民俗芸能保存団体が抱えるさまざまな悩みを専門

コンサルタントとして解決する事業計画を提案しました。「参加者増加プログラム」では、観光客の増加を目的にSNSでの情報発信支援やパンフレット制作を実施。また、「担い手公募プログラム」では、新たな担い手を募り、活動への参加を通じて、関係人口の拡大を目指しています。ビジネスモデルがない領域の起業でしたが、試行錯誤の末に大賞を受賞することができました。

受賞後、審査員の方から「ビジネスに大切なのは“思い”だ」というコメント

をいただきました。私は幼い頃から地元愛知県の「花祭」に担い手として参加しています。参加者の一人として、民俗芸能の魅力は携わる人がありのままの姿で輝けるところだと考えています。美しい民俗芸能を未来の日本に残したいという思いが、ビジネスの原動力。これからもこの思いを胸に、事業を磨いていきたいと思っています。



グローバルにビジネスを展開。地方の課題を 採用で解決する

私が代表を務める株式会社クラークンは、「広島から、より深いつながりを。」をテーマに、採用広報・支援メディアの運営やコンテンツ制作を軸として、企業と学生が“共感”でつながる仕組みを展開しています。広島の就活生向けメディア「ひろしまジョブナビ」では、学生自身が企画・取材・編集を担い、学生の目線で

企業の魅力を発信しています。また、学生と企業が語り合うイベント「おしゃべり就活」を実施するなど、採用にとどまらない関係性づくりも行っています。

地方では就職を機に多くの若者が首都圏等へ流出する課題がありますが、地域企業の魅力を地元の学生に伝え、地元への就職を重視してもらえるよう活動をしています。そこで地方であっても世界基準で事業展開を図ろうと、米国シリコンバレーで開かれた「J-StarX起業家等の海外派遣プログラムU25起業



家コース」に参加しました。3週間のプログラムで「ビジネスの本質は社会課題の解決である」ことを学び、採用という枠を超え“地方の未来社会のデザイン”という目標を立てました。今後は、学生・企業・行政が協働し、地域全体で若者と企業との関係を育てる「採用エコシステム」というモデルを広島で確立し、全国、世界へと広がっていきたいです。

株式会社クラークン
代表取締役CEO

せん だ たい し

千田 太志 さん

総合科学部国際共創学科4年

アカデミアへの道

目指せ！

博士課程後期の学生にインタビュー！

日々研究に打ち込む博士課程後期の学生たちに、後輩へのアドバイスや、進学希望者を増やすために必要なことについて聞きました。

博士課程後期とは？

博士号取得を目指し、高度な専門的研究に取り組みます。博士課程前期修了後、3年間をかけて論文を執筆し、研究者として必要な能力を養うと共に新たな知を創出します。

学士課程 4年	博士課程 前期2年	博士課程 後期3年	研究者、 企業等
------------	--------------	--------------	-------------



私たちが取材しました！
学生広報ディレクター

はやみ こうみ
早見 光海さん
生物生産学部
4年

みやのまえ なみ
宮ノ前 那海さん
総合科学部
総合科学科 2年

はやし れい
林 玲衣さん
法学部
4年

Interview 1 ゲノム編集技術で生まれる新しいウズラの科学

ふじい そうだい
藤井 想大さん

大学院統合生命科学研究科
博士課程後期1年



【研究テーマ】

鳥類を対象に遺伝子工学的手法を用いた研究を行っています。具体的には、ゲノム編集というツールを搭載したウイルスを運び屋として利用し、それをウズラ細胞に感染させて、遺伝子を操作する研究に取り組んでいます。

Q1 博士課程後期への進学を決めた理由は何ですか？

A1 博士課程前期で実験を重ねる中で、結果から新たな疑問が生まれ、その理解のプロセスを追究することに強く惹かれるようになりました。好奇心を出発点に問いを突きつめていく楽しさが、博士課程後期への進学を決めた大きな理由です。

Q2 研究内容を詳しく教えてください。

A2 ゲノム編集技術を用いてウズラのDNAを改変し、新たな形質をもつ遺伝子改変ウズラの作出に取り組んでいます。研究室での実験は地道な作業の連続ですが、日々の研究の小さな面白さがモチベーションになっています。

Q3 博士課程後期の学生を増やすにはどうすれば良いと思いますか？

A3 身近に相談できる先輩がいることが大きな支えになると感じます。私自身も同じ研究室の先輩の助言が進路選択の後押しとなりました。また、博士学生と気軽に会える環境づくりや博士修了後の進路像を描けるようにすることが必要であると思います。

Interview 2 教育哲学で教員の実践をより豊かにしたい

おがさわら あみ
小笠原 愛美さん

大学院人間社会科学研究科
博士課程後期1年



【研究テーマ】

アメリカの哲学者ジュディス・バトラーの理論を教育哲学に応用し、これまで「克服すべき課題」とされてきた子どもたちの弱さや傷つきやすさについて、捉え方を問い直したいと考えています。

Q1 博士課程前期と博士課程後期で生活面の違いはありますか？

A1 博士課程前期では教員免許取得のために専修課程を履修しており、研究に十分な時間を割けませんでした。博士課程後期に進学してからは講義が大幅に減り、研究に専念する時間をしっかりと確保できるようになりました。

Q2 将来のキャリアプランはどのように考えていますか？

A2 博士課程後期修了後は大学教員として、小・中・高等学校の教員育成に携わりたいと思っています。教員養成課程を通して教育の現場に継続的に関わりながら、子どもたちに寄り添った教育観の構築に貢献したいです。

Q3 博士課程後期の学生を増やすにはどうすれば良いと思いますか？

A3 研究内容や将来のキャリアなど、博士課程後期の実態が見えにくいことが進学への不安につながっていると感じます。早期から情報提供を充実させ、進学後のイメージを具体的に描けるようにすることが大切だと思います。

Interview 3 カエルに捧げる学生生活 研究を追いかけ 研究に追われた3年間

おがわ しゅうへい
小川 修平さん

大学院統合生命科学研究科
博士課程後期3年



【研究テーマ】

オタマジャクシがカエルへと変態する際、足の形成に関わる遺伝子やそのメカニズムの研究をしています。幼少期にカエルの成長に驚きと魅力を感じ、カエルの研究をするために広島大学に入学しました。

Q1 博士課程後期を目指す学生に伝えたいことはありますか？

A1 博士課程後期への進学については「ぜひ進学してほしい」という思いと「予想以上に大変で一概に勧められない」思いがあります。研究に打ち込める点は非常にうれしい一方で、生活面では少なからず無理をしてしまうこともあります。

Q2 博士課程後期の3年生としてアドバイスをお願いします。

A2 博士課程後期では、研究のみに専念する学生と、研究と生活のバランスを重視する学生に二極化すると感じます。前者の方が多い印象ですが、研究に左右される生活は不安定さを伴うことも。研究者にはメンタル管理も大切です！

Q3 博士課程後期の学生を増やすにはどうすれば良いと思いますか？

A3 博士課程後期への進学は、進路への不安から断念するケースが少なくありません。卒業後も含めた進学後のビジョンを明示することや、研究の悩みを先輩に相談できる場を設け、それを周知することが必要だと思います。

大学の動き

広島大学メールマガジン創刊 ― 今すぐ登録を！

広島大学ではこのたび、大学の最新ニュースや研究成果、イベント情報などをタイムリーにお届けする「広島大学メールマガジン」を創刊しました。本メールマガジンは、地域・一般の皆さまなど、広島大学に関心を寄せる全ての方々に向けて配信する新しい情報発信ツールです。大学の取り組み、キャンパスの今、学生・教職員の活躍のほか、限定の特集記事など、幅広い話題を分かりやすくまとめ、皆さまの“身近な広大”としてお届けします。メールマガジンは無料でどなたでもご購入いただけます。よりタイムリーに広島大学の“今”を知っていただくため、ぜひこの機会にご登録ください。今後も広島大学は、多様な情報をわかりやすく発信し、皆さまとのつながりをより一層深めてまいります。

登録はこちらから！



総合科学部

「総合科学部学生独自プロジェクト」の中間発表会を開催しました

学部の理念(学際性・総合性・創造性)に合致した創意工夫のある活動の活性化を目指し、学生自身で企画・遂行するプロジェクト課題を複数支援しています。11月1日のホームカミングデーでプロジェクト課題の中間発表会を開催しました。



文学部

オープンキャンパスで西洋史学と考古学の学びを提供

模擬授業では、西洋史学と考古学の教員が登壇し、各分野の面白さをわかりやすく紹介しました。研究室公開では、448人が参加し、貴重な文献や史料に触れながら、教員や在学生との対話を通じて、学問の奥深さを実感していただきました。



教育学部

日本語教員養成課程が「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として正式認定

5月30日、日本語・日本文化教育学プログラムの日本語教員養成課程が、文部科学省による「登録日本語教員養成機関」および「登録実践研修機関」として正式認定を受けました。日本語教育専門家の育成という使命を果たすべく、引き続き質の高い教育の提供に努めてまいります。



法学部

台湾ショートビジットプログラムを実施しました

9月2日から9月9日まで、台湾ショートビジットプログラムの一環として10人の学生が台湾・国立政治大学での集中講義を受講しました。国立政治大学の学生と交流を図ったほか、最終日には参加者が各自設定したテーマについてプレゼンテーションを行いました。



経済学部

卒業生と在学生の懇談会を開催しました

7月3日、広島大学広楓会(同窓会)主催の懇談会を開催し、昼間コースの1年生約80人が参加。広島県内などに就職した卒業生が就職活動の方法や会社選びのコツ等を語り、在学生からは試験対策や仕事での印象的な経験について質問がありました。



理学部

旧理学部1号館の被爆壁面タイルが展示されています

理学部E棟1階のE103資料室には、旧理学部1号館の被爆壁面タイルが展示されています。その壁面には、被爆当時手探りで避難した人々が残した血痕(黒いしみ)が残されており、戦争の悲惨さと命の重みを静かに物語っています。



医学部

若い世代の献血者数増加のために活動しています

広島大学献血推進サークル「Kasumi-Bloodonors」は、学内献血の運営や赤十字血液センターの見学、SNSの発信、献血イベントへのボランティア参加などを通じ、若い世代に献血に関心を持ってもらうことを目標に活動しています。



歯学部

歯学部60周年・口腔健康科学科20周年記念事業を開催します

2025年に広島大学歯学部は60周年、口腔健康科学科は20周年を迎えました。これまでの歩みを振り返るため、2026年2月21日に記念講演会を開催するほか、歯学部の歴史や取り組みを伝える記念誌の制作を予定しています。



薬学部

オンライン・バーチャル薬草園に園内散策(春)と薬草観察(2種)を追加

薬学部附属薬用植物園のホームページでは、薬草園の見学や薬用植物の観察ができるバーチャル薬草園を公開しています。園内散策の春バージョンを追加するとともに、より親しみが持てるよう、広島弁で、薬草の性状や薬効の解説をしています。



工学部

「RCCスクール YouTube チャンネル」に工学部が登場

大学の魅力を発信する動画コンテンツ「RCCスクール YouTube チャンネル」に工学部が登場！学生がレポーターとなり、授業や実験の様子、最先端の研究や実験施設、キャンパスの雰囲気などを紹介していきます。ぜひ、ご覧ください。



生物生産学部

高大接続型プログラム～サマーキャンプ～を開催しました

高大接続型プログラムの一環として、高校3年生9人が単位認定試験を受験するとともに学部生と教員による研究紹介講義を受講し、大学での学修を一足先に体験しました。これより参加者は「広島大学光り輝き入試 総合型選抜Ⅰ型」の受験資格を得ました。



情報科学部

インド工科大学ボンベイ校(IITB)と部局間学生交流協定を締結

世界トップクラスの理工系大学であるインド工科大学ボンベイ校と、情報科学分野の学生交流を促進する部局間学生交流協定を締結しました。その後の会談では、システム制御分野での学術交流拡大について意見交換を行いました。



人間社会科学研究科

藤原翔太准教授が第42回渋沢・クロードル賞奨励賞を受賞

6月13日、人文学プログラムの藤原翔太准教授の著書『ブリュメール18日 革命家たちの恐怖と欲望』が第42回(2025年度)渋沢・クロードル賞奨励賞を受賞しました。第24回大佛次郎論壇賞(2024年)に続く受賞となります。



先進理工系科学研究科

HIRODAIとマツダ財団が贈る「先進サイエンスサロン」を開催

11月15日、大学院先進理工系科学研究科とマツダ財団が贈る「先進サイエンスサロン」の第5回目として「実験と計算で拓く化学の最前線～生命の起源からものづくりまで～」をテーマに、講演と演示実験を行いました。



統合生命科学研究科

基礎生物学プログラムの学生が「新世界透明標本展」でワークショップを実施

8月16日、9月27日に東広島市立美術館で透明骨格標本を観察するワークショップを開催し、博士課程前期2年の中西健介さんが講師を務めました。各日16人が参加し身近な小動物の標本を顕微鏡で観察しました。



医系科学研究科

広島大学を代表とする「HK²-MIRAI」がAMED「医学系研究支援プログラム(特色型)」に採択

「広島・神戸・熊本 医療革新・研究共同推進イニシアティブ(HK²-MIRAI)」が、AMEDの「医学系研究支援プログラム(特色型)」に採択されました。3大学が連携して、世界トップレベルの研究成果を創出し、迅速な実用化につなげることで、人々の健康・医療課題の解決に貢献していきます。

スマートソサイエティ実践科学研究院

学位論文中間発表会(ポスター発表)を実施

研究領域間の交流促進と研究成果の報告の機会として、学位論文の中間報告を研究ポスター発表会として実施しました。9月30日、博士課程前期・後期の学生50人がポスター発表を行い、優秀な学生9人に最優秀賞ほか各賞を授与しました。



部活動・サークル紹介

広大生のアクティブライフ!



毎年12月 定期演奏会開催
2025年10月 けんみん文化祭ひろしま'25出場/優秀賞受賞

初心者大歓迎!
他の活動や学業との
両立がしやすい
環境です!

“邦楽部”

和楽器と出会い、人との輪を広げ、
和気あいあいと活動できる場所

和楽器を演奏する音楽系サークルです。私たちは、皆さんが邦楽と出会う
“入り口”でありたいと思っています。未経験者も丁寧な指導と温かい仲間
に支えられながら安心して活動できます。奥深い和の音色に親しみ、一生
の趣味と仲間を見つけませんか?



部員数 活動日
53人 不定期
サークル棟(広島大学課外活動共用施設)
最上階和室・音楽練習室3

企業との交流を通して、
「モノづくり」活動が
できる!



学生フォーミュラ日本大会2025
総合成績38位・日本自動車工業会会長賞受賞
学生フォーミュラ日本大会2012
総合成績12位(最高成績)



“フォーミュラ Phoenix Racing”

描いたものを形にする、
動かす、未来と車を創るサークル

私たちは「学生主体でマシンを作り上げる」という目標の下、活動しています。
企業とのやり取りやチーム運営まで、学生が中心となって取り組むこの経験
は、他では得られない貴重なものです。そして、この活動の成果として、学生
フォーミュラ日本大会に出場し、大会での実践もまた貴重な経験となります。
ぜひ一緒にモノづくりに挑戦してみませんか?



部員数 活動日
23人 自由。やりたい人がやりただけ活動。
部室:工学部棟南側階段下
作業場:工学部G4棟



2025年度中国四国学生柔道優勝大会 女子三人制団体 優勝
2025年度全日本学生柔道優勝大会 女子三人制団体 準優勝
2024年度中国五大学学生競技大会 男子団体 優勝、女子団体 優勝

“柔道部”

真剣に取り組むから成長できる、
仲間とともに高みを目指す

部員一人ひとりが前向きに挑戦し、日々柔道に真剣に取り組んでいます。その
努力する姿勢は仲間にも伝わり、全員が声を掛け合う良い雰囲気を作ること
ができています。初心者も大いに歓迎しており、留学生もよく練習に参加して
います。競技力だけでなく考える力や他人と深く関わる力も育むことができ
るのが柔道部の魅力。ぜひ一度見学にお越しください!

初心者・
留学生歓迎



真剣に取り組む中で、
考え行動する力が
身に付きます!



部員数 活動日
20人 月・火・水・木・金・土
西体育館武道場、
西体育館トレーニング室

Campus Gallery

HU photos

Instagramで#広島大学 の付いた
投稿からお届けします。



投稿者 ngoduydongvn さん
#hiroshimauniversity

ひろティー活動記録



短期留学STARTプログラムでオーストリア
を訪問! グラーツ大学で
の講義や、環境・健康に配
慮した食材でのクッキング
などを体験し、充実した
学びとなりました♪



広島大学にまつわる写真を
#広島大学 を付けてInstagramに投稿
してください。テーマは何でもOK!
素敵な写真をお待ちしています。

投稿
募集中!



投稿が掲載された方には

広島大学
オフィシャルグッズ
「トートバッグ」をプレゼント

WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。
いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus

検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計6名様にプレゼント!

※応募締切:2026年3月31日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

A HUオリジナルグッズ
「アクリルキーホルダー」

2名様



B HUオリジナルグッズ
「フーディ」
Lサイズ

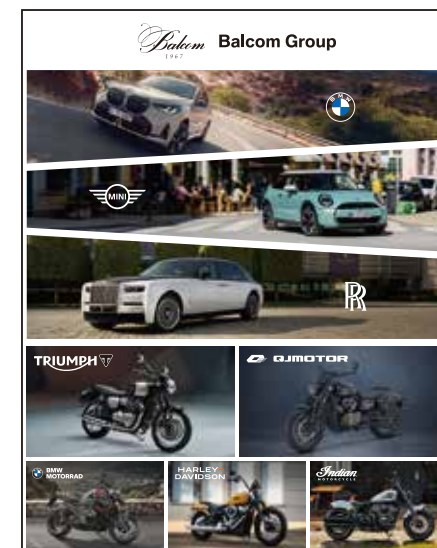
1名様



C 漫画

『ヒロ子さんと巡る広島大学』
弘兼憲史・ヒロカネプロダクション作画
(広島大学出版会)

3名様



この瞬間が
アツいんだ。

毎月10日はお好み焼の日

● 高額のご寄附をいただいた方(2025年6～9月まで)

個人 10億円以上
法人 20億円以上

佐竹 利子 様
[特別寄附者]

個人 5000万円以上 法人 1億円以上

公益財団法人
広島大学教育研究支援財団
理事長
佐竹 利子 様
株式会社 サタケ 様
[学費]
一般財団法人緑風会 様
[学費]

個人 5億円以上
法人 10億円以上

岡田外科医院 様
[寄附者]
山西 泰明 様
[学費]
財団法人浜谷育英会 理事長
小丸 法之 様
[学費]
池田 英明 様
[学費]
矢野 博文 様
[学費]

個人 1000万円以上 法人 2000万円以上

株式会社バブルコム 代表取締役
山坂 哲郎 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人社団まりも会
ヒロシマ平松病院 会長
平松 廣夫 様
[名譽校友][冠寄附者]
越智 光夫 様
[名譽校友][冠寄附者]
平尾 泰保 様
[名譽校友][冠寄附者]
猫本 宏司 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人社団浜中皮ふ科クリニック
理事長
浜中 和子 様
[名譽校友]
晝馬 輝夫 様
[名譽校友]
医療法人あかね会 理事長
土谷 治子 様
[名譽校友]
株式会社広島銀行 代表取締役頭取
部谷 俊雄 様
[名譽校友]
医療法人たんぽぽ会 理事長
大嶋 俊一 様
[名譽校友]
小野 光代 様
[名譽校友]
株式会社メンテックワールド
代表取締役社長
小松 節子 様
[名譽校友]
児玉 治 様
[名譽校友]
アビ株式会社 代表取締役社長
野々垣 孝彦 様
[名譽校友]

医療法人社団昭信会
瀬島産婦人科病院 理事長
頼島 信 様
[名譽校友]
医療法人社団ヤマナ会
会長
山名 征三 様
[名譽校友]
山名 二郎 様
[名譽校友]
児玉 咲子 様
[名譽校友]
東洋観光グループHD
日本基準器具株式会社
代表取締役
今井 誠則 様
[名譽校友]
勝矢 博 様
[名譽校友]
松川 博之 様
[名譽校友]
三嶋 弘 様
[名譽校友]
鶴野 俊雄 様
[名譽校友]
村上 清貴 様
[名譽校友]
徳永 彰 様
[名譽校友]
星山 政昭 様
[名譽校友]
天野 純子 様
[名譽校友]
田中 隆荘 様
[名譽校友]
藤岡 道治 様
[名譽校友]

個人 500万円以上 法人 1000万円以上

オアフソース株式会社
取締役会長
佐々木 直義 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人社団仁慈会
安田病院
理事長
安田 真衣子 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人社団楓会
林病院
理事長
林 淳二 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人おち眼科医院
理事長
越智 温子 様
[名譽校友][冠寄附者]
株式会社紀陽
代表取締役社長
寒川 起佳 様
[名譽校友][冠寄附者]
坂下 勝 様
[名譽校友][冠寄附者]
株式会社村上農園
代表取締役
村上 清貴 様
[名譽校友]
医療法人社団みめぐみ会
会長
中村 雄二 様
[名譽校友]
株式会社薬地
代表取締役
平尾 眞裕美 様
[名譽校友]
医療法人せのがわ
瀬野川病院
下原 唯千夏 様
[名譽校友]
社会医療法人社団
沼南会
沼隈病院
理事長
櫛谷 鞠子 様
[名譽校友]
広島ガス株式会社 様
[名譽校友]

医療法人恒和会
松石病院
理事長
松石 頼明 様
[名譽校友]
医療法人社団仁慈会
安田病院
理事長
安田 真衣子 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人社団楓会
林病院
理事長
林 淳二 様
[名譽校友][冠寄附者]
医療法人おち眼科医院
理事長
越智 温子 様
[名譽校友][冠寄附者]
株式会社紀陽
代表取締役社長
寒川 起佳 様
[名譽校友][冠寄附者]
坂下 勝 様
[名譽校友][冠寄附者]
株式会社村上農園
代表取締役
村上 清貴 様
[名譽校友]
医療法人社団みめぐみ会
会長
中村 雄二 様
[名譽校友]
株式会社薬地
代表取締役
平尾 眞裕美 様
[名譽校友]
医療法人せのがわ
瀬野川病院
下原 唯千夏 様
[名譽校友]
社会医療法人社団
沼南会
沼隈病院
理事長
櫛谷 鞠子 様
[名譽校友]
広島ガス株式会社 様
[名譽校友]

個人 100万円以上 法人 100万円以上

戸田工業株式会社
代表取締役
久保 恒晃 様
[冠寄附者]
医療法人社団伯瑛会
のぞみ整形外科
理事長
金田 瑛司 様
[冠寄附者]
広島大学消費生活協同組合
理事長
細野 賢治 様
広島大学歯学部同窓会 様
株式会社ダイクレ
代表取締役社長
山本 浩 様
公益社団法人内外いくえい会
代表理事
高橋 喜人 様
広島大学歯学部歯科
補綴学第一講座
同門会 様
医療法人社団清流会
理事長
永井 賢一 様
医療法人社団慈恵会
いまだ病院
院長
大杉 健 様
[冠寄附者]
株式会社にしき堂
代表取締役社長
大谷 博国 様
[冠寄附者]
医療法人ワカサ会
理事長
若佐 直定 様
医療法人社団マッキー
理事長
松木 啓 様
[冠寄附者]
株式会社日本
クライメイトシステムズ 様
[冠寄附者]
弁護士
緒方 俊平 様
[冠寄附者]
医療法人辰川会
理事長
辰川 自光 様
医療法人
昭和原田整形外科病院
理事長
原田 昭 様
[冠寄附者]
医療法人社団スマイル
博愛クリニック
理事長
高杉 啓一郎 様
[冠寄附者]
医療法人S.R.C.
中光整形外科
院長
中光 清志 様
医療法人KOC
金谷整形外科クリニック
理事長
金谷 篤 様
[冠寄附者]
医療法人明英会
理事長
安本 正徳 様
[冠寄附者]
株式会社やまだ屋
代表取締役
中村 靖富満 様
[冠寄附者]
株式会社総合広告社
代表取締役副会長
坪井 高義 様
[冠寄附者]
もみじ銀行 様
医療法人エム・エム会
理事長
白川 泰山 様
[冠寄附者]
医療法人社団知仁会
理事長
石井 知行 様
医療法人社団井野口病院
会長
井野口 千秋 様
一般社団法人東広島地区医師会
会長
山田 謙慈 様
医療法人小田内科クリニック
理事長
小田 弘明 様
医療法人社団梶山小児科
理事長
梶山 泰正 様
医療法人社団陽正会
寺岡記念病院
理事長
寺岡 暉 様

広島日野自動車株式会社
代表取締役社長
上野 孝史 様
藤本 吉範 様
丸正産業株式会社
代表取締役
高羽 謙 様
山本 佳史 様
力田 忠義 様
石原 舜三 様
東儀 宣哲 様
木村 榮一 様
医療法人社団長寿会
はたのリハビリ整形外科
理事長
畑野 栄治 様
迫田 久美子 様
西田 修美 様
中村 昂江 様
吉國 晋 様
田妻 進 様
安永 裕司 様
アカシア会
(広島大学附属
高校同窓会) 様
末廣 眞一 様
利島 保 様
渡邊 篤 様
真鍋 英喜 様
中村 英雄 様
池永 孝 様
川尻 武信 様
茶山 一彰 様
石田 吉樹 様
広島大学
保健学同窓会院慶会
会長
高橋 真 様
相原 玲二 様
宇佐 弘 様
野上 智行 様
丸山 博文 様
椿 康和 様
広島大学広楓会 様
畑尾 武海 様
部谷 正人 様
吉田 総仁 様
荒本 徹哉 様
中西 雷太 様
新延 聡子 様
山本 陽介 様
津賀 一弘 様
一般社団法人 尚志会 様
医療法人翠清会
翠清会梶川病院
会長
梶川 博 様
理事長
若林 伸一 様
大池 久子 様
株式会社中国新聞社
代表取締役社長
許 泰一 様
岡谷 義則 様
熊井 英水 様
栗栖 長典 様
中外テクノス株式会社 様
中村角株式会社
代表取締役
中村 一朗 様
宮谷 真人 様
山根 恒弘 様
丸山 恭司 様
片木 晴彦 様
石原 隆雄 様
藤井 輝久 様
山田 道夫 様
相川 清文 様
中島 淑乃 様

杉村 功 様
中村 英二 様
平岡 恒雄 様
山田 宏 様
山本 薬品株式会社
代表取締役
山本 浩司 様
RF技研工業株式会社
代表取締役
玉村 俊雄 様
相田 美砂子 様
秋野 成人 様
井川 幹夫 様
石井 知行 様
石崎 信三 様
医療法人あすか
理事長
高橋 勲 様
医療法人社団慶寿会
千代田中央病院
理事長
北尾 憲太郎 様
医療法人社団栢歯科医院
柄 俊彦 様
医療法人社団中川会
呉中通病院
院長
中川 豪 様
医療法人清泉会
一ノ瀬病院 様
医療法人たかまさ会
理事長
山崎 正志 様
医療法人ハートフル
理事長
天野 純子 様
内野 弘 様
江川 和禧 様
三村 邦雄 様
宮本 博子 様
村上 恒二 様
望月 可奈子 様
八幡浜市役所 様
山田 征士郎 様
ヤマネホールディングス
株式会社
代表取締役社長
山根 誠一郎 様
株式会社中国放送
代表取締役社長
宮迫 良己 様
株式会社日経不動産
取締役会長
平尾 泰保 様
株式会社フジタ
代表取締役社長
奥村 洋治 様
株式会社矢野商事 様
株式会社ユニサス
代表取締役会長
松村 公市 様
神谷 研二 様
河原 能久 様
北村 拓也 様
協同出版株式会社
代表取締役
小貫 輝雄 様
楠 雄治 様
小池 透 様
公益財団法人
浦上奨学会
理事長
浦上 浩 様
高祖 譲 様
佐藤 裕子 様
重山 俊彦 様
社会医療法人清風会
理事長
梶原 四郎 様
新谷 貴之 様
鈴木 孝尚 様

住田 忠孝 様
Sumitomo
Corporation Asia &
Oceania Pte. Ltd. 様
高田 隆 様
田中 知満 様
寺本 康俊 様
天道 俊孝 様
土肥 博雄 様
永井 敏隆 様
永井 眞由美 様
長瀬 洋一 様
西口 千登志 様
長谷川 泰二 様
PT Suzuki
Indomobil Sales 様
平田 敏夫 様
広島アルミニウム
工業株式会社
代表取締役社長
田島 文治 様
広島県厚生農業
協同組合連合会
尾道総合病院 様
広島大学薬学同窓会 様
福田 和恵 様
福田 幸雄 様
藤村 欣吾 様
堀 司郎 様
増井 孝子 様
松村 誠 様
道中 美敏 様
三村 邦雄 様
宮本 博子 様
村上 恒二 様
望月 可奈子 様
八幡浜市役所 様
山田 征士郎 様
ヤマネホールディングス
株式会社
代表取締役社長
山根 誠一郎 様
株式会社中国放送
代表取締役社長
宮迫 良己 様
株式会社日経不動産
取締役会長
平尾 泰保 様
株式会社フジタ
代表取締役社長
奥村 洋治 様
株式会社矢野商事 様
株式会社ユニサス
代表取締役会長
松村 公市 様
神谷 研二 様
河原 能久 様
北村 拓也 様
協同出版株式会社
代表取締役
小貫 輝雄 様
楠 雄治 様
小池 透 様
公益財団法人
浦上奨学会
理事長
浦上 浩 様
高祖 譲 様
佐藤 裕子 様
重山 俊彦 様
社会医療法人清風会
理事長
梶原 四郎 様
新谷 貴之 様
鈴木 孝尚 様

● 2025年6月から2025年9月までにご寄附をいただいた方

100万円以上

中田 俊司 様
[名譽校友]
原田 昭 様
[名譽校友]
平尾 泰保 様
[名譽校友][冠寄附者]

広島大学
消費生活協同組合
理事長
細野 賢治 様

医療法人恒和会松石病院
理事長
松石 頼明 様
[名譽校友]

医療法人社団
みめぐみ会サンクリニック
会長
中村 雄二 様
[名譽校友]

株式会社タケウチ建設
代表取締役
竹内 謹治 様
株式会社矢野商事 様
熊井 英水 様

河野 修興 様
[名譽校友]
パパラ株式会社
代表取締役
内藤 亨 様
[名譽校友]

原田 知 様
広島大学歯学部歯科
補綴学第一講座同門会 様
山田 征士郎 様

10万円以上100万円未満

株式会社シンク
代表取締役
高瀬 優 様
迫田 久美子 様
広島駅弁当株式会社 様
岩原 恭代 様
有限会社中原克太
代表取締役
中原 英雄 様
安保 由美 様
池田 聖 様
石ヶ坪 洋史 様
一般社団法人尚志会 様
一般社団法人広島大学
工学同窓会 会長
富田 知弘 様
一般社団法人広島大学
東雲同窓会 様
医療法人友枝会
理事長
友枝 圭 様
株式会社河野
代表取締役社長
河野 幹卓 様

株式会社メンテックワールド
代表取締役社長
小松 節子 様
[名譽校友]
Center for Distance Learning,
TNU Dr.Nguyen Huu Cong 様
谷村 秀樹 様
特定非営利活動法人
広島ベトナム協会
理事長
上久保 昭二 様
利島 保 様
友枝 圭 様
中嶋 洋 様
濱田 泰伸 様
広島大学医学部医学科
広仁会 会長
原田 昭 様
広島大学
総合科学部同窓会 様
丸山 博文 様
山田 吉隆 様
和光紙器株式会社 様

1000円以上10万未満

アンザイ株式会社 様
大田 能彦 様
大野 和子 様
協和海運株式会社 様
佐々木 敦紀 様
杉本 靖 様
不動産株式会社
代表取締役
榎木 亮次 様
岩岡 和宏 様
呉 佳順 様
下中正司 様
坪井 均 様
株式会社ニシキコネクト 様
川嶋 滋則 様
川島 優子 様
坂詰 貴司 様
武居 良裕 様
西尾 真樹 様
西野 浩 様
部谷 正人 様
三谷 脩 様
稲垣 博行 様
大木 洋 様

株式会社訪問看護
ステーション陽向 様
菅尾 伸二 様
楠田 祥士 様
慶田 敏紀 様
小堀 正 様
惟任 博昭 様
近藤 雅美 様
堺 博志 様
佐崎 輝昭 様
白川 大輔 様
進藤 明男 様
新家 大輔 様
高木 睦郎 様
池澤 宜彦 様
高橋 啓介 様
武田 直也 様
田坂 圭一郎 様
田中 裕幸 様
津賀 一弘 様
西岡 直也 様
野澤 茂樹 様
橋口 貴志 様
日比野 貞勝 様
平田 泰範 様

弘中 九十 様
深谷 克郎 様
福西 有間 様
前田 浩二 様
三好 修基 様
安田 肇生 様
山口 慶剛 様
山下 修功 様
山田 正司 様
渡辺 泰教 様
塩本 文夫 様
下西和修加 様
井上 明 様
角谷 寛 様
國川 美智子 様
豊永 久生 様
平田 勝裕 様
藤田 裕佳利 様
三戸田 晃司 様
三好 薫 様
屋敷 太郎 様
柳原 利規 様
吉川 弥里 様

冠事業基金

(2025年9月現在)

2015年度から新たに、寄附をいただいた方のご芳名などを冠して、寄附者様のご厚意が見える形にした「広島大学冠事業基金」を創設しました。寄附方法は、一口5万円の毎月の継続寄附で、当面は外国人留学生への奨学金と日本人学生への海外留学資金に活用します。

医療法人社団慈恵会
いまだ病院
院長
大杉 健 様
[名譽校友]
(2015.11～/595万円)
株式会社にしき堂
代表取締役社長
大谷 博国 様
(2016.4～/570万円)
弁護士
緒方 俊平 様
(2019.8～/370万円)
医療法人おち眼科医院
理事長
越智 温子 様
[名譽校友]
(2015.8～/1210万円)

越智 光夫 様
[名譽校友]
(2016.2～/580万円)
医療法人KOC
金谷整形外科クリニック
理事長
金谷 篤 様
(2016.2～/580万円)
医療法人社団伯瑛会
のぞみ整形外科
理事長
金田 瑛司 様
(2021.3～/非公開)
戸田工業株式会社
代表取締役
久保 恒晃 様
(2017.12～/950万円)

医療法人K&Clover
理事長
小林 健二 様
[名譽校友]
(2020.5～/325万円)
坂下 勝 様
[名譽校友]
(2017.2～/470万円)
オアフソース株式会社
代表取締役
佐々木 直義 様
[名譽校友]
(2016.1～/非公開)
医療法人エム・エム会
理事長
白川 泰山 様
(2016.8～/550万円)

株式会社紀陽
代表取締役社長
寒川 起佳 様
[名譽校友]
(2016.9～/非公開)
医療法人社団スマイル
博愛クリニック
理事長
高杉 啓一郎 様
(2015.12～/非公開)
田中 純子 様
(2020.6～/320万円)
株式会社総合広告社
代表取締役副会長
坪井 高義 様
(2016.3～/570万円)

医療法人S.R.C.
中光整形外科
院長
中光 清志 様
(2015.12～/585万円)
株式会社やまだ屋
代表取締役
中村 靖富満 様
(2017.1～/非公開)
猫本 宏司 様
[名譽校友]
(2021.8～/230万円)

医療法人社団楓会
林病院
理事長
林 淳二 様
[名譽校友]
(2016.3～/575万円)
医療法人昭和
原田整形外科病院
理事長
原田 昭 様
(2015.10～/595万円)
平尾 泰保 様
[名譽校友]
(2021.10～/480万円)

医療法人社団まりも会
ヒロシマ平松病院
会長
平松 廣夫 様
[名譽校友]
(2016.1～/1170万円)
株式会社日本
クライメイト
システムズ 様
(2019.6～/640万円)
医療法人社団マッキー
理事長
松木 啓 様
(2016.1～/615万円)

医療法人社団仁慈会
安田病院
理事長
安田 真衣子 様
[名譽校友]
(2015.12～/590万円)
医療法人明英会
理事長
安本 正徳 様
(2016.2～/580万円)
株式会社バブルコム
代表取締役
山坂 哲郎 様
[名譽校友]
(2015.12～/590万円)

(寄附開始年月/累計額)

ご芳名は、公開についてご承諾いただいた方を掲載させていただきます。掲載している情報は、ご寄附当時のものです。[特別校友]の称号については、誌面の都合により割愛させていただきました。

支援を受けた学生の声

日本の科学教育に貢献できる研究者を目指して

教育学部から人間社会科学研究科教育科学専攻教師教育デザイン学プログラムへ進学し、無機炭酸塩の熱分解および無機酸化物の炭酸化の可逆反応による自然エネルギーの効率的利用と温室効果ガス削減についての研究を進めています。研究の過程で、国際学会(CEEC-TAC7)へ参加する機会を得ました。本学会に参加するにあたり、「研究等支援事業基金」からご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。学会では、他の研究者からの質疑を通じて実験条件などの新たな示唆を得ることができ、また、同世代の海外研究者との交流も大きな刺激となりました。さらに、世界中の研究者が、各々の研究領域を確立しながら、強固に結びついてきたことを身近に感じることもできました。初めて国外の学会に参加したことで、研究者になりたい気持ちを強くするとともに、今後は所属研究室の特徴である基礎化学と教育学の2つの専門性を持つことに磨きをかけたいと考えています。そのうえで、日本の科学教育に貢献できるようになりたいです。



支援を受けた
学生の紹介は
こちらからも
ご覧いただけます。



堀田 実杜 さん
大学院人間社会科学研究科
博士課程後期2年
教師教育デザイン学プログラム
※所属、学年は取材当時のもの

広大さんぽ



凜とした空気に包まれる冬の広島大学。雪の日の朝、静かなキャンパスに白い息を弾ませながら学生たちが登校します。普段見慣れた景色も、雪化粧をまといばまるで別世界。澄みきった空と白い地面とのコントラストが、冬だけの広大の表情を映し出します。足跡とわだちが残る小道を歩きながら、寒さの中にもどこか温もりを感じる——そんな季節の風景をお届けします。

① 登校風景（東広島キャンパス・中央口付近）

雪がちらつく朝、自転車や徒歩で登校する学生。「広島大学」の塔を背景に、静かな並木道が白く染まり、冬の訪れを感じさせます。冷たい空気の中、学生たちの一日が今日も始まります。

② 凍るぶどう池（東広島キャンパス）

キャンパス中央に広がるぶどう池も、厳しい寒さに覆われて静かに凍結。氷の白さに周囲の木々や工学部の建物が映える冬景色は、まるで絵画のよう。時間がゆっくりと流れる、広大の冬の象徴的な一枚です。

③ 教育学部前の雪景色（東広島キャンパス）

青空の下、薄く積もった雪を踏みしめながら歩く学生。レンガ色の建物と白い雪が織りなす光景は、冬ならではのコントラスト。新しい一年への期待を感じさせる、晴れやかなキャンパスの風景です。

広島大学 統合報告書

本学の活動を分かりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的とした「広島大学 統合報告書 2025」を発行しました。本学の目指す未来とその実現に向けた各取り組みの成果を本学の特色や強みと共にご紹介しています。ぜひご覧ください！

デジタルブックはこちらから
ご覧いただけます



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学

編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

<https://www.hiroshima-u.ac.jp>

